

デジタルに触れて、学ぶ新しいクラブ活動。最新多種多様なデジタル機器を活用できる居場所を提供。遊び、楽しみながら、創造する喜びの実感を。

採択事業者名 **デジタルキッズクラブ愛媛**
 コンソーシアム構成員 **FC今治 FC今治高校 今治明德高校 本校 今治高等学院**

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	デジタルクラブ活動の様子や内容を広く知ってもらいその広がりや今後の活動に活かす。
勉強会の当初のゴール想定と結果	子どものデジタル体験イベントに大人も来てもらうことで本事業の理解を促進。松山と今治で勉強会を実施。それぞれ数十名の参加あり。
参加者	子ども本人や子ども連れの家族、又、今治市役所の方、地元企業の方などが複数。
協議アジェンダ	これまでの実施内容の報告と今後の方向性に関するディスカッションの実施。
データに基づく協議ポイントの整理	1人1人との対話やコミュニケーションのやり方に関して経験談の共有など。
主なデータ項目	子どもとの向き合いから生まれる示唆
協議におけるガイドライン (含む具体例)	なし
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	1, 館長を中心とする改めでの体制構築。 2, 持続可能なビジネスモデルの模索やパートナーの模索。



データ活用・協議の具体例		
重要指標例	デジタルクラブ活動を通じて、子どもたちにデジタル機器で広がる自分の可能性を伝えること。	
	実装前	実装後
データ取得	<ul style="list-style-type: none"> 市内のデジタル教育の状況が掴み切れていない。 市内には最新デジタルに多様に触れられる施設はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内のデジタル教育の状況を現場や同業者、協力の地域事業者などから得ることができた。 市内には最新デジタルに多様に触れられる施設ができた。
データ活用	<ul style="list-style-type: none"> プログラミング教室があるが子ども側は月謝としてお金を必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設は子どもは無料で通ってもらえる仕組みである。
実行	<ul style="list-style-type: none"> 本テーマの子ども居場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントを複数回実施。子どもの興味や親の興味があることを確認。 施設の運用を開始へ
協議	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの将来を考えあったらいいと考えてはいたが、なかなか実行にまではもっていけない状態。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設を立ち上げ、子どもの受け入れを開始。 継続経営のためのビジネスモデルや方法を検討。

データ活用・協議による成果		
デジタルクラブ活動を通じて、子どもたちにデジタル機器で広がる自分の可能性を伝えること。		
項目	これまで	データ活用・協議を踏まえて
デジタルクラブ活動利用	最新デジタルに触れる機会が少ない。	市内80名程度の子どものに、最新デジタルの経験を届けられている。

勉強会実績